

英訳芭蕉俳句(1)

佐藤 貢

English Translation of Bashō's Haiku Poems

by

Mitsugi SATO

1. 序

芭蕉の俳句を英訳するに当って、最初に調査究明しなければならないことは、芭蕉の句は一体どのくらいあるかということである。

「芭蕉翁編年誌」(目黒野著)が昭和30年10月に青蛙房から刊行になったが、同書9頁に「芭蕉は一生涯に一体どれ程の発句を作ったか、寛文4年に出た松江重頼の佐夜中山集に春秋各一句の二句がある。これが彼の発句の初句である。主人公蟬吟と共に北村季吟に入門したのが寛文2年であるから、この二句を3年頃の作と仮定し、元禄7年初冬大坂の病床で「旅に病て」の一句を最後として瞑目するまで、約30年間の作句成績を、穎原退蔵博士の岩波文庫「新訂芭蕉俳句集」に依て、同想異形は一句に数え誤伝は計算に入れないで、左の如き第一表を得

季	春	夏	秋	冬	雑	計
有	251	237	289	198		995
季 雑	0	2	18	5		25
無 季					10	10
考 証	150	84	142	119		495

と、記している。

つまり、この数字は季の有、無、無季のものが1030句で、考証のあるものが495句ということになるのである。

その後、私の研究がすすむにつれ、いろいろの文献に接することになって、この数が人によって異っていることに驚いたのである。

昭和33年3月に、朝日新聞社から、日本古典全集第86回目の配本に、「芭蕉句集」という本が刊行になった。この本は、穎原退蔵校註で、山崎喜好の増補したものである。

この書物に収められた芭蕉俳句は、すべて1005句である。もとよりこれは確実と見られるもののみに関り、存疑のものは加えていないのである。

この総句数の中、新年は27句、春は228句、したがって新年と春を加えた数は255句、夏は247句、秋は300句、冬は194句、さらに雑は9句、ということになるのである。

とにかく、右にあげた芭蕉の句数については、人によって多才の増減を生ずるであろうと言っているのである。

ところで、この書物の句数の編集の基礎となったのは、昭和22年全国書房刊行「新校芭蕉俳句全集」で、この書は穎原退蔵が編まれたものを基礎としたものである。

三省堂から「芭蕉講座全9巻が、初版は昭和19年6月に、改訂初版が21年12月に刊行された。

この講座は第1巻から第3巻までが「発句篇」で、穎原退蔵、加藤楸邨の共著であったが、とりあげられている句数は923句であった。

「定本芭蕉大成」が三省堂から昭和37年11月に刊行になった。編著者は尾形働、加藤楸邨、小西甚一、広田二郎、峰村文人の5氏である。

この書では年代の明になっている句が982句で、年代未詳のものは11句で、計993句をとりあげている。

角川書店から刊行になった「芭蕉全集」が刊行になり、第1巻と第2巻が芭蕉句集にあてられている。校注者は阿部喜三男（第一巻）、大谷篤蔵（第2巻）で、昭和37年5月に刊行になった。

この書では、年代の明らかになっているものが912句で、年次不詳のものが68句で、芭蕉の句だというのが980句である。

岩波書店から日本古典文学大系の一冊として、「芭蕉句集」（大谷篤蔵、中村俊定、校注）として、昭和37年6月に刊行された。この書物では確実な句として、842句をとりあげているのである。

筑摩書房から古典日本文学全集の一冊として、加藤楸邨「松尾芭蕉集（上）」が昭和35年に刊行になった。この書には句として981句をとりあげている。

集英社から昭和45年7月に、井本農一、堀信夫校注として、古典文学大系5巻として、芭蕉集（全）が刊行になった。この集には987句をとりあげている。

岩波書店から、文庫本として「芭蕉俳句集」が中村俊定校訂として、昭和45年5月に刊行になった。この文庫には982句がとりあげられている。

諸注評釈「芭蕉俳句大成」（岩田九郎著、明治書院、昭和42年7月刊）には、俳句五十音索引がついている。

これを見ると1195句をとりあげているが、その中で釈説をしてとりあげているものは978句である。

そこで以上の書物の句数をあげてみると、

芭蕉講座（三省堂，昭19）	923句
芭蕉翁編年誌（青蛙房，昭30）	1030句
芭蕉句集（朝日新聞，昭33）	1005句
松尾芭蕉集（筑摩書房，昭35）	981句
芭蕉句集（岩波書店，昭37）	842句
芭蕉大成（三省堂，昭37）	993句
芭蕉俳句大成（明治書院，昭42）	978句
岩波文庫本（岩波書店，昭45）	982句
芭蕉集（集英社，昭45）	987句

ということになる。

以上の書物にとりあげられたものの中から疑の存するものを除外してみると、私は私の立場から 959 句は確実に芭蕉の句として認定していいと思ったのである。

そこで本大学紀要第19号より 959 句の英訳芭蕉俳句を 959 句載せる計画である。

2. 英訳芭蕉俳句（その一）

今朝の雪根深を藷の枝折哉

This snowy morning

I found green leeks in the farm

Directing my way

於春々大哉春と云々

Oh! sprig, spring,

How great it is!

Spring! I say again.

花にやどり瓢箪齋と自いへり

Resting under cherry blossoms

I have called myself

Mr. Gourd

かなしまむや墨子芹焼を見ても猶

He may grieve,

Bokushi, a great Chinese thinker,

To see Japanese parsleys burned

五月の雨岩ひばの縁いつ迄ぞ

Raining in May

Fresh green of rock moss

How long will it last?

蜘蛛何と音をなにと鳴秋の風

A spider, what?

With what sound do you chirrup?

In the Autumn wind.

よるべをいつ一葉に虫の旅ねして

When will he reach reliance?

On a leaf of paulownia, a worm

Is resting on the water

花むくげはだか童のかざし哉

The rose of Sharon
A naked boy is holding up
Over his head

夜ひそかに虫は月下の栗を穿つ
At silent night
A worming digging a hole in a chestnut
Under the moon light.

枯枝に烏のとまりたるや秋の暮
On a dead branch
A solitary crow perches
In the Autumn twilight.

愚案ずるに冥途もかくや秋の暮
To my meditation
The region of the dead is as lonely
As this Autumn sunset.

小野炭や手習ふ人の灰ぜせり
Ono-charcoal in a brazier
A man who learns handwriting
Practices on the ash.

いづく霽傘しぐれを手にさげて帰る僧
Where was it raining?
With a wet umbrella in his hand
Comes home a priest.

しばの戸にちやをこの葉かくあらし哉
At the door of brushwood
Fallen leaves of tea-plants are raked
By the storm

雪の朝独り干鮭を嚙得たり
In this snowy morning
My solitary life, dried salmon,
I can only be chewing.

石枯て水しぼめるや冬もなし
The stone has dried up
The water has withered, now,
I can't feel even winter.

餅を夢に折結ふしだの草枕

A rice-cake in my dream
With my pillow folded the fern
My New year's Day.

藻にすだく白魚やとらば消ぬべき

Gathering about seaweed
Whitebaits, if I take hold of them
Surely they will disappear.

盛じや花にそぞろ浮法師ぬめり妻

In the bloom of everything
Blossoms, involuntarily-gay-priest
And my coquettish wife.

山吹の露葉の花のかこち顔なるや

A dew drop of a yellow rose
While that of rape blossoms,
How discnsolate they are!

摘けんや茶を風の秋ともしらで

How many tea-leaves picked!
As if by an autumn withering blast
Cannot she know it?

ばせを植てまつにくむ荻の二ば哉

Have planted Musa Basjoo
First of all I hated young leaves
Of the common reed

郭公まねくか麦のむら尾花

Invite little cuckoos
Does a group of wheat do?
Just like Mis-canthus sinensis.

五月雨に鶴の足みじかくなれり

In a spring rain
A leg of crane becomes
Shorter and shorter

愚にくらく棘をつかむ螢哉

How ignorant!

In the dark I grasped thorns
Instead of fireflies.

闇夜きつね下はふ玉真桑
At moonless night
A fox is crawling downward
A precious melon

夕顔の白く夜るの後架しそくに帟燭とりて
How white moon-flowers are!
At night I went to wash my hands
With alamp of oiled papers

武蔵野の月の若ばへや松島種
On Musashino Field
The young moon is growing from
The seed on Matsushima

侘てすめ月侘斎がなら茶歌
Living a lonely life
Looking up the moon, Tsukiwabisai,
I sing and have Nara tea-rice.

芭蕉野分して盥に雨を聞夜哉
A severe storm in Musa Basjoo
A rain dropped into a tub
At a pitch-dark night

槽の声波をうって腸氷る夜やなみだ
The sound of the oal
Against the waves, frozes ^(原)my intestines
At night tear drops

くれぐれて餅を木魂のわびね哉
At the end of the year
Echo of pounding rice
Listening, I sleep lonely.

餅花やかざしにさせるよめが君
Rice-cake like a flower
Decorated on her head
A youg wife, namely a rat.

花に酔り羽織着てかたな指す女
Drunk with blossoms
Dressed with Japanese man's coat
A woman wore a sword

二日酔いものは花のあるあいだ
The overnight drunkenness
I don't care
While blooming

松なれや霧ゑい，さらゑ，いと引ほどに
Indeed, a pine-tree!
Fog, with a calling, "Ei-Saraei"
hauled and tugged

霜をふむでちむば引まで送りけり
Stepping the frost
Until I limped, I walked with him
To see him off

梅柳さぞ若衆哉女かな
Plum-trees and willows
Just as being
Young men and women.

袖よごすらん田螺の蟹あまの隙をなみ
May dirty sleeves,
Fisher women on a paddy-field
Are busy for gathering mud-snails.

艶奴今やう花にらうさいす
An amorous boy
With the modern style
Is singing against blossoms.

註. 英訳にあたり，附属高校の草谷美代子先生の援助を受けたことを感謝す。